

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970101618		
法人名	社会福祉法人 てくとこ会		
事業所名	グループホーム 南十字星		
所在地	高知県高知市種崎593		
自己評価作成日	平成30年3月20日	評価結果 市町村受理日	平成30年6月22日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・その人らしさを大切に、利用者一人ひとりに合った支援が行えるよう、日々心掛けています。</li> <li>・職員間のコミュニケーションを多く取り、ケアの質が向上するよう、チーム全体で取り組んでいます。</li> <li>・利用者には、毎日、美味しいご飯を食べていただいています。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kihontrue&amp;JiyosyoCd=3970101618-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022">http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kihontrue&amp;JiyosyoCd=3970101618-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成30年5月7日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は住宅地にあり、鉄筋コンクリート造り3階建てで、2、3階が居住空間になっている。各居室からは木々が見渡せる、良い環境にある。居間は、明るく動きやすい間隔でテーブルが置かれ、くつろぎやすい空間になっている。身近な季節の草花や節句の挿絵、手作りカレンダー、こいのぼり等の季節感があり、安らげる装飾を心がけている。</p> <p>日常生活では、安全で元気に過ごせる支援として、平行棒による見守り歩行訓練を行い、歩行の改善や下肢筋力保持につなげ、利用者の外出意欲を向上させている。</p> <p>散歩や野菜作りは、近隣住民との交流の場となり、防災避難訓練は消防署、地域住民と合同で毎年実施されている。</p> <p>介護計画では利用者、家族もカンファレンスに参加し、状態変化等に柔軟に対応した策定プロセスが分かりやすくまとめられ、自分らしく暮らしていく為の目標や支援が具体的に記載されている。評価も毎月実施して、現状に即した介護支援になっている。</p>
---

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場ミーティングのほか、定期的に職員相互の意見共有の場を会として設け、基本理念に基づいたケアを実践できるように意識づけをしている。	利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支える支援を謳った理念は、単文で分かりやすい言葉で表現されている。職員会や日々のミーティング、生活の場等で職員は理念を共有し、ケアに反映させている。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	夏は近所の夏祭りで地域住民との交流を図り、年1回の避難訓練では、地域と災害時の連携が図れるように努めている。また、近所の民生委員や家族に運営推進会に参加してもらい、意見交流の場としている。	日頃の散歩や、家庭菜園での野菜作りが地域との交流の場となり、近隣からのおすそ分けや、声掛けが利用者と地域をつなぐ暮らしの一部になっている。地域のイベントや活動行事は回覧で把握し、花見や夏祭りに参加している。	地域と利用者の交流を促進するためにも、事業所自らが町内会に参画するほか、学校等の行事にも積極的に参加するなど、日常的なつながりを更に強化されたい。
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	畑で農作業するときは、出来る限り沢山の利用者に参加してもらうことで近所住民との交流につながり、事業所に対する地域の認知度も高まっている。	/	/
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の担当職員や民生委員、家族の参加を得て、利用者の状態や事業所での取り組み、今後の課題を協議している。貴重な意見を聞く場として位置付け、不参加の家族へも日程を配布したり、参加を募っている。	会議には、利用者、家族、地区民生委員、地域包括支援センター職員が出席し、外部評価結果や改善の取り組み等を報告し、出席者の助言を介護サービスの質向上につなげている。議事録は分かりやすく記載されており、家族にも送られている。	
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要なときには市の各関係機関へ連絡を取り、支援に必要な助言やアドバイスを得ている。	利用者の受け入れ状況やサービス提供等について市の介護保険課担当者と連絡を取り、情報共有を行うとともに、問題解決に向けての助言を受けている。ケアサービスの取り組み方針にも助言が活かされ、協力関係が築かれている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上、夜間は玄関を施錠しているが、日中は自由に行き来が行えるよう、常に開放している。身体拘束については、今年の介護報酬改定に伴い、新たに委員会の設置が義務付けられているので、取り組んでいく。	利用者の人権を守ることをケアの基本とし、日中は自由に行き来できるように鍵をかけない暮らしを大切にしている。居室には、利用者の生活状態に合わせて手すりを設け、安全確保と共に抑圧のない自由な暮らしを支援している。事業所方針に沿って、家族とリスクに関する話し合いも行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回、母体法人内で研修の機会を設けて虐待防止に取り組んでいる。研修以外でも、職員は日々の自分達の支援が見誤っていないかを振り返りながら、定期的にヒアリングを行い、未然防止に努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者があり、今後も実践を通じて理解を深めていき、学びの場に参加したり、職員間で制度について共有していけるよう心掛ける。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に運営方針やケアの内容を説明する以外にも、家族の疑問や相談にはなるべく応じるようにしている。また、面会時には職員が積極的に声を掛け、不明な点があれば気軽に声を掛けてもらえるよう、配慮している。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面会時に積極的に声を掛け、意見、要望があれば検討するように取り組んでいる。運営推進会に参加した家族からも悩みや困りごとなどあれば気軽に相談してもらえるよう、和やかな雰囲気づくりに努めている。	初対面での対応では、利用者、家族と信頼関係を築く基本として接遇に心がけている。利用者や家族からの意見や要望を引き出すため、さり気なく声掛けをしながら関わっていく姿勢や場面作りを大切にしている。意見箱も置いているが、家族の要望や意見はなく、活用されていない。	いつでも利用者や家族が気軽に話し合える場づくりやアンケートの実施も視野に入れ、家族が集まった際に家族同士が交流を深め、率直な思いを話せる場となるような工夫を期待したい。
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティングやカンファレンス以外にも、職員から個人的な相談があれば管理者は意見や提案を聞き、働きやすい職場づくりに努めている。	職員と共につくる運営体制として、管理者職員間では気軽に会話を交わし、何でも話せる人間関係を大切にして、働きやすい職場環境に心がけている。ユニットリーダーからの提案で、利用者の嗜好に合わせた外食支援の取り組みが実現した。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	母体法人で定められた期間内は非正規職員扱いになるが、期間経過後は正職員として働けるよう、法人人事部門と連携して取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人内での毎月の研修以外にも、職員には、定期的に外部の研修に参加してもらっている。外部研修受講の申し出には、なるべく希望を叶えている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと意見交換が行える会を定期的で開催している。また他職種（医師往診、訪問看護、訪問歯科、訪問リハビリテーション）訪問時には、積極的に情報共有を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	人は誰でも環境が変わる不安、家族と離れ離れに暮らす寂しさがあるという思いを忘れずに、今後の生活に希望や楽しみが持てることを心掛けながら、入所前より必要な情報収集を行い、面談時は少しでも良好な関係性が築けるよう、しっかりと利用者の思いや考えを受け止めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から、家族の思いや考えもしっかり考慮しながら関係性が築けていけるよう密に連絡を取り、面談時にも今後の関係性をより良いものとしていけるよう、出来る限り要望を聞いている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのようなサービスが必要かをしっかりアセスメントして、必要なサービスについては早急に開始できるよう努めている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、利用者には、家事手伝い以外にも、体操やレクリエーションに参加してもらっている。ときには職員も教えてもらい、ときには職員と力を合わせて作業することで、共に暮らす関係性を高めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族、友人、知人との面会中は、気兼ねなく一緒に過ごしてもらえよう、配慮をしている。遠方の家族にも安心してもらえるよう、毎月、写真入りの手紙を送っている。疎遠になっている家族とも、必要なときには電話で連絡を取りながら、双方の関係性を保っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は夜間以外は時間の制限もなく、家族や親戚以外でも友人、知人の来訪がある。知人の範囲も広く、かつての利用者の教え子やお弟子さん、宗教関係者など、幅広く関係性を保っている。	家族や親戚、知り合いが自由に訪問できるように配慮し、面会者の情報は、今までの生活のつながりを継続していくための情報として、ケアプランに活用している。また、馴染みの美容院や買い物にも付き添いながら、馴染みの関係継続の支援に努めている。	利用者がこれまで培ってきた人間関係や社会とのつながりを続けるとともに、新たな関係性の構築をも視野に入れた支援を期待する。また、事業所の催しには様々な馴染みの関係者が参加し、利用者との関係維持が図られることを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士一緒に散歩に出掛けたり、協力して作業することで、良好な関係が築けるよう配慮している。相性の良し悪しを把握し、定期的に席替えなど行うことで、関係性が悪化したり孤立して過ごす利用者がいないようにも考慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退所を検討しなければならない場合でも、本人や家族から要望があれば契約延期を最優先に考えている。また、やむなく環境が変わる場合にあっても、出来る限り今までの生活が継続できるよう、関係先との情報交換を密に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の意向を最優先にし、全職員が本人の視点に立った支援を行っている。自分の思いを伝えることが困難な利用者については、仕草や表情から思いを汲み取り、また、家族にも協力を求めて、今までの生活歴や趣味など、ありとあらゆる情報を加味して支援を行っている。	利用者一人ひとりの思いや意向に沿い、買物やドライブなどの個別対応支援を心がけている。思いを伝えることが困難な利用者には、仕草や表情から思いを汲み取り、家族からの情報も参考として、本人本位の個別支援を計画し、実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、家族以外でも友人や知人などとの面会時には様々な情報を得ているほか、利用者の日常の何気ない仕草や行動からも情報収集を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの心身状態をしっかり把握し、個々の有する力を最大限発揮できる支援を心掛けている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月利用者各々の介護計画の評価を行い、必要な場合は往診時や訪問看護時に医師や看護師からアドバイスを得ている。介護計画の見直しが必要な場合は家族に説明を行い、本人がよりよく暮らしていけるための介護計画が作成できるよう、取り組んでいる。	利用者、家族もカンファレンスに参加し、その意見が盛り込まれた介護計画は、そのプロセスも明確に記載され、担当職員の問題解決に向けた取り組みも含めて、チームでの見直し評価を毎月実施している。医師や看護師の専門的な助言も介護計画に反映されている。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりに職員が担当を受け持っており、気づきや変化があれば職員間で話し合いを行っている。記録以外でも、申し送りノートなど別の情報手段を活用して、他の職員との情報共有を実践している。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所前に本人や家族の要望を聞くことはもちろん、実際に入所した後も必要に応じて意見や要望を取り入れている。家族の医療機関受診同行が難しい場合は職員が代行し、書類手続きも職員が出来る限り行っている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所に桜が綺麗に咲く公園があり、よく散歩などで活用している。市の好意で無償で貸し出しており、先日も花見を開催することができた。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の事業所協力医による往診、週1回の訪問看護、訪問歯科の受診は事前に同意を得ており、他の病院受診を希望する場合には、要望に沿えられるよう取り組んでいる。協力医から他の医療機関受診の要請あれば家族に説明し、同意を得ている。	利用者、家族等が希望する医療機関の受診を支援している。専門医、歯科への受診には職員が付き添い、結果は必ず家族に報告している。協力医の往診や看護師訪問、訪問歯科検診等を定期的に受け、結果は家族に報告して、個人記録と日誌への記録で職員間の情報共有を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、事業所内に看護師の配置はないため、週1回の訪問看護と、月2回の協力医往診時に、密に情報の交換を行っている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は利用者を見舞いに行ったり、病院担当者と連絡を取り合ったりして、早期退院ができるよう努めている。また、家族とも協力して必要な情報は提供できるようにしている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に一度、終末期についての説明は行うが、入所後に実際に重度化した場合には、関係医療機関と相談しながら、今後の方針について再度、家族に説明している。	家族には、重度化指針に沿って入所前に終末期に関する説明とともに情報提供をし、意向確認をしている。実際の重度化の際には、協力医と連携をとり、事業所でできる支援などについて家族と話し合いながら、チームで支援に取り組んでいるが、家族の意向で全て協力医病院に入院している。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や勉強会で学習したり、実際にあった過去の事例からも教訓として学んでいる。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年避難訓練を行い、マニュアルも常時、目の届くところに備えている。災害時の備蓄品(飲料水・非常食・簡易トイレ・布団類など)も完備している。	毎年、地域住民20人前後が参加して、消防署と連携して災害想定での避難訓練を実施している。事業所は地域住民の避難場所として活用されており、2階の備蓄庫には災害時備品が保管され、地域との協力支援体制が築かれている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「その人らしさ」を尊重したケアを常に心掛け、プライバシーへの配慮に欠けることないよう取り組んでいる。尊厳を損なわない言葉掛けにも、常に意識するよう努めている。	利用者一人ひとりの人格を重んじて、さん付け呼称を基本にしている。声掛けのタイミングや、さり気ない配慮でトイレ誘導をするなど、人権やプライバシーに配慮した支援を心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定の場において、職員主導ではなく、出来る限り本人が決定するよう心掛けている。また、表現が困難な利用者については、表情や仕草から思いを汲み取っている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	型にはまったケアではなく、場面場面に応じた柔軟なケアが展開できるよう、取り組んでいる。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服が好きな利用者と一緒に買い物に行ったりするほか、日々の衣類も一緒に選び、髭剃りや整髪などの整容も積極的に支援している。お手伝いをしながら、季節の衣替えも定期的に行っている。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食サービスを活用しているが、お手伝いが好きな利用者と一緒に盛り付けをしたり、後片付けも一緒に行っている。食事のメニューに関してはなるべく意見を取り入れ、嫌な食材があれば個別にメニューを用意している。	献立には利用者の希望や好みを取り入れ、嗜好品も選べるように配慮している。利用者が率先して盛り付け作業に参加し、職員と一緒にてきぱきと食器洗いや片づけすることが、自立の側面において、利用者の自信につながっている。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々、利用者の食事と水分の摂取量をチェックし、不足している利用者には補食支援ができるようにしている。また、一人ひとりに応じた食器を構え、出来る限り自分の力で食事ができるようにしている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の訪問歯科診療を活用しながら、習慣として行えるよう、毎食後の口腔ケアに取り組んでいる。口腔内の状態チェックはもちろん、利用者一人ひとりに合ったケア方法を歯科医師と相談して、支援している。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーの保護や排泄パターンの把握はもちろん、自分から尿意を訴えられない利用者に対してはどのような方法がベストかアセスメントし、自立に向けた支援ができるようにしている。	排泄支援を段階的にアプローチし、個々の排泄パターンとその人なりの兆候を見極め、どの方法が合っているのか評価して、利用者に応じた排泄支援を行っている。入所前の紙オムツから、布パンツ使用になった利用者が3名いる。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や寒天、繊維質の多い物を提供したり、必要な場合は医師の指示のもとに薬剤調整を行っている。また、適度な運動も取り入れている。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決まったルールはなく、入浴したいときに好きな時間に入浴できるよう支援している。毎日入浴する利用者もいるが、3日に1回程度の利用者が多い、	浴槽は木の香りが漂う檜風呂で、利用者の意向や好みの時間に合わせ、自由に入浴を楽しんでいる。入浴時には、希望があれば同性介助とし、バスタオルで不要な露出を避けて、心身ともに爽快感が得られる支援を心がけている。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の休みたいときに好みに休んでもらっている。意思決定の難しい利用者に対しては、長時間の座位が続いたり、眠気が見られたときには、適宜休んでもらっている。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は常に職員の目の届くところに用意し、使用後の副作用や症状の変化がないかなど、日々の状態観察を行っている。薬剤はユニットリーダーが管理し、必要な情報はしっかり情報共有している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いが好きな利用者には家事手伝いの役割を持ってもらい、会話が好きな利用者同士でお茶を飲みながら談笑してもらうなど、一人ひとりに合った過ごし方を支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩に出かけ、雨の日には各ユニットを歩き来して、一緒に体操やレクリエーションに参加してもらうことで利用者同士の交流を図っている。遠出については、計画を立てて実施している。家族の協力が得られるときは、一緒に参加してもらっている。	天気の良い日は近くの公園出かけ、四季の花々を見て楽しんでいる。個々の要望に合わせて、月2、3回、買物などに出かけている。龍馬マラソンのルートに近く、地域住民と一緒に応援している。外出時には、職員も安全運転と安全管理に万全を期している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は事業所で金銭を預かっているが、手元に持ちたいと希望あった利用者に対しては、家族の同意も得て本人に一部を預けている。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があり、代わってほしいと要望あれば本人と話してもらっている。手紙も本人に渡しており、頼まれれば内容を伝えている。可能な利用者には、年賀状も直筆で書いてもらっている。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花や装飾の飾り付けを行い、室内の照明は明るくし、温度も適温に保てるよう心掛けている。不快な思いを与えないよう、足音、話し声、ドアの開け閉め音などにも全職員が注意している。	食堂を兼ねた南向きの広い居間には両壁にソファが置かれ、広い窓からは家屋や木々が見え、自然の光が差し込みくつろげる空間になっている。また、四季の草花や装飾にも心がけ、利用者が居心地よく過ごせる工夫や配慮をしている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は数名で談笑したり、散歩に出掛けたりして、思い思いに過ごしている。午後は休憩時間をとっており、一人で過ごす機会が来ている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、馴染みの家具や生活用品の持込みを受け入れている。共用空間同様に、居室内の光量や温度調整は最適に保てるよう心掛けている。	馴染みのタンスや椅子、ベッドなど、利用者一人ひとりの生活に合わせて配置している。家族写真や思い出のクッション等が置かれ、利用者が居心地良く過ごせる配慮ができています。季節感のある職員手作りカレンダーも各居室に貼られ、感受性を高める支援の一つになっている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂場やトイレなど、各場所に目印を構え、居室入り口には表札を構えている。室内はバリアフリー構造ではあるが、なるべく足元に歩行の妨げになる物を置かないよう注意している。また居室の家具は、災害時になるべく被害が少なくなるよう設置させてもらっている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名: 十字星

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場ミーティングのほか、定期的に職員相互の意見共有の場を会として設け、基本理念に基づいたケアを実践できるように意識づけをしている。		
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏は近所の夏祭りで地域住民との交流を図り、年1回の避難訓練では、地域と災害時の連携が図れるように努めている。また、近所の民生委員や家族に運営推進会に参加してもらい、意見交流の場としている。		
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	畑で農作業するときは、出来る限り沢山の利用者に参加してもらうことで近所住民との交流につながり、事業所に対する地域の認知度も高まっている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の担当職員や民生委員、家族の参加を得て、利用者の状態や事業所での取り組み、今後の課題を協議している。貴重な意見を聞く場として位置付け、不参加の家族へも日程を配布したり、参加を募っている。		
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要なときには市の各関係機関へ連絡を取り、支援に必要な助言やアドバイスを得ている。		
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上、夜間は玄関を施錠しているが、日中は自由に行き来が行えるよう、常に開放している。身体拘束については、今年の介護報酬改定に伴い、新たに委員会の設置が義務付けられているので、取り組んでいく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回、母体法人内で研修の機会を設けて虐待防止に取り組んでいる。研修以外でも、職員は日々の自分達の支援が見誤っていないかを振り返りながら、定期的にヒアリングを行い、未然防止に努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者があり、今後も実践を通じて理解を深めていき、学びの場に参加したり、職員間で制度について共有していけるよう心掛ける。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に運営方針やケアの内容を説明する以外にも、家族の疑問や相談にはなるべく応じるようにしている。また、面会時には職員が積極的に声を掛け、不明な点があれば気軽に声を掛けてもらえるよう、配慮している。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面会時に積極的に声を掛け、意見、要望があれば検討するように取り組んでいる。運営推進会に参加した家族からも悩みや困りごとなどあれば気軽に相談してもらえるよう、和やかな雰囲気づくりに努めている。		
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティングやカンファレンス以外にも、職員から個人的な相談があれば管理者は意見や提案を聞き、働き易い職場づくりに努めている。		
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	母体法人で定められた期間内は非正規職員扱いになるが、期間経過後は正職員として働けるよう、法人人事部門と連携して取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人内での毎月の研修以外にも、職員には、定期的に外部の研修に参加してもらっている。外部研修受講の申し出には、なるべく希望を叶えている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと意見交換が行える会を定期的で開催している。また他職種(医師往診、訪問看護、訪問歯科、訪問リハビリテーション)訪問時には、積極的に情報共有を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	人は誰でも環境が変わる不安、家族と離れ離れに暮らす寂しさがあるという思いを忘れずに、今後の生活に希望や楽しみが持てることを心掛けながら、入所前より必要な情報収集を行い、面談時は少しでも良好な関係性が築けるよう、しっかりと利用者の思いや考えを受け止めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から、家族の思いや考えもしっかり考慮しながら関係性が築けていけるよう密に連絡を取り、面談時にも今後の関係性をより良いものとしていけるよう、出来る限り要望を聞いている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのようなサービスが必要かをしっかりアセスメントして、必要なサービスについては早急に開始できるよう努めている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、利用者には、家事手伝い以外にも、体操やレクリエーションに参加してもらっている。ときには職員も教えてもらい、ときには職員と力を合わせて作業することで、共に暮らす関係性を高めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族、友人、知人との面会中は、気兼ねなく一緒に過ごしてもらえよう、配慮をしている。遠方の家族にも安心してもらえるよう、毎月、写真入りの手紙を送っている。疎遠になっている家族とも、必要なときには電話で連絡を取りながら、双方の関係性を保っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は夜間以外は時間の制限もなく、家族や親戚以外でも友人、知人の来訪がある。知人の範囲も広く、かつての利用者の教え子やお弟子さん、宗教関係者など、幅広く関係性を保っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士一緒に散歩に出掛けたり、協力して作業することで、良好な関係が築けるよう配慮している。相性の良し悪しを把握し、定期的に席替えなど行うことで、関係性が悪化したり孤立して過ごす利用者がいないようにも考慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退所を検討しなければならない場合でも、本人や家族から要望があれば契約延期を最優先に考えている。また、やむなく環境が変わる場合にあっても、出来る限り今までの生活が継続できるよう、関係先との情報交換を密に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の意向を最優先にし、全職員が本人の視点に立った支援を行っている。自分の思いを伝えることが困難な利用者については、仕草や表情から思いを汲み取り、また、家族にも協力を求めて、今までの生活歴や趣味など、ありとあらゆる情報を加味して支援を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、家族以外でも友人や知人などとの面会時には様々な情報を得ているほか、利用者の日常の何気ない仕草や行動からも情報収集を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの心身状態をしっかり把握し、個々の有する力を最大限発揮できる支援を心掛けている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月利用者各々のプランに対する評価を行い、必要な場合は往診時や訪看時に医師や看護師からアドバイスを得ている。介護計画の見直しが必要な場合は家族に説明を行い、本人がよりよく暮らしていけるための介護計画が作成できるよう、取り組んでいる。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりに職員が担当を受け持つており、気づきや変化があれば職員間で話し合いを行っている。記録以外でも、申し送りノートなど別の情報手段を活用して、他の職員との情報共有を実践している。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所前に本人や家族の要望を聞くことはもちろん、実際に入所した後も必要に応じて意見や要望を取り入れている。家族の医療機関受診同行が難しい場合は職員が代行し、書類手続きも職員が出来る限り行っている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所に桜が綺麗に咲く公園があり、よく散歩などで活用している。市の好意で無償で貸し出してくれており、先日も花見を開催することができた。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の事業所協力医による往診、週1回の訪問看護、訪問歯科の受診は事前に同意を得ており、他の病院受診を希望する場合には、要望に沿えられるよう取り組んでいる。協力医から他の医療機関受診の要請あれば家族に説明し、同意を得ている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、事業所内に看護師の配置はないため、週1回の訪問看護と、月2回の協力医往診時に、密に情報の交換を行っている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は利用者を見舞いに行ったり、病院担当者と連絡を取り合ったりして、早期退院ができるよう努めている。また、家族とも協力して必要な情報は提供できるようにしている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に一度、終末期についての説明は行うが、入所後に実際に重度化した場合には、関係医療機関と相談しながら、今後の方針について再度、家族に説明している。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や勉強会で学習したり、実際にあった過去の事例からも教訓として学んでいる。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年避難訓練を行い、マニュアルも常時、目の届くところに配備している。災害時の備蓄品(飲料水・非常食・簡易トイレ・布団類など)も完備している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「その人らしさ」を尊重したケアを常に心掛け、プライバシーへの配慮に欠けることないよう取り組んでいる。尊厳を損なわない言葉掛けにも、常に意識するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定の場において、職員主導ではなく、出来る限り本人が決定するよう心掛けている。また、表現が困難な利用者については、表情や仕草から思いを汲み取っている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	型にはまったケアではなく、場面場面に応じた柔軟なケアが展開できるよう、取り組んでいる。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服が好きな利用者と一緒に買い物に行ったりするほか、日々の衣類も一緒に選び、髭剃りや整髪などの整容も積極的に支援している。お手伝いをしながら、季節の衣替えも定期的に行っている。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食サービスを活用しているが、お手伝いが好きな利用者と一緒に盛り付けをしたり、後片付けも一緒に行っている。食事のメニューに関してはなるべく意見を取り入れ、嫌な食材があれば個別にメニューを用意している。		
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々、利用者の食事と水分の摂取量をチェックし、不足している利用者には補食支援ができるようにしている。また、一人ひとりに応じた食器を構え、出来る限り自分の力で食事ができるようにしている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の訪問歯科診療を活用しながら、習慣として行えるよう、毎食後の口腔ケアに取り組んでいる。口腔内の状態チェックはもちろん、利用者一人ひとりに合ったケア方法を歯科医師と相談して、支援している。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーの保護や排泄パターンの把握はもちろん、自分から尿意を訴えられない利用者に対してはどのような方法がベストかアセスメントし、自立に向けた支援ができるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や寒天、繊維質の多い物を提供したり、必要な場合は医師の指示のもとに薬剤調整を行っている。また、適度な運動も取り入れている。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決まったルールはなく、入浴したいときに好きな時間に入浴できるよう支援している。毎日入浴する利用者もいるが、3日に1回程度の利用者が多い、		
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の休みたいときに好みに休んでもらっている。意思決定の難しい利用者に対しては、長時間の座位が続いたり、眠気が見られたときには、適宜休んでもらっている。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は常に職員の目の届くところに用意し、使用後の副作用や症状の変化がないかなど、日々の状態観察を行っている。薬剤はユニットリーダーが管理し、必要な情報はしっかり情報共有している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いが好きな利用者には家事手伝いの役割を持ってもらい、会話が好きな利用者同士でお茶を飲みながら談笑してもらうなど、一人ひとりに合った過ごし方を支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出かけ、雨の日には各ユニットを歩き来して、一緒に体操やレクリエーションに参加してもらうことで利用者同士の交流を図っている。遠出については、計画を立てて実施している。家族の協力が得られるときは、一緒に参加してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は事業所で金銭を預かっているが、手元に持ちたいと希望あった利用者に対しては、家族の同意も得て本人に一部を預けている。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があり、代わってほしいと要望あれば本人と話してもらっている。手紙も本人に渡しており、頼まれれば内容を伝えている。可能な利用者には、年賀状も直筆で書いてもらっている。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花や装飾の飾り付けを行い、室内の照明は明るくし、温度も適温に保てるよう心掛けている。不快な思いを与えないよう、足音、話し声、ドアの開け閉め音などにも全職員が注意している。		
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は数名で談笑したり、散歩に出掛けたりして、思い思いに過ごしている。午後は休憩時間をとっており、一人で過ごす機会が来ている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、馴染みの家具や生活用品の持込みを受け入れている。共用空間同様に、居室内の光量や温度調整は最適に保てるよう心掛けている。		
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂場やトイレなど、各場所に目印を構え、居室入り口には表札を構えている。室内はバリアフリー構造ではあるが、なるべく足元に歩行の妨げになる物を置かないよう注意している。また居室の家具は、災害時になるべく被害が少なくなるよう設置させてもらっている。		

ユニット名:

十字星

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				